



SUA FOUNDERS

アメリカ創価大学寄付者ニュースレター



内容

ごあいさつ：アメリカ創価大学学長	2
ごあいさつ：新学生自治会執行委員長	3
SUA生活を振り返って（本年卒業・3期生）	4
SUA同窓生（1期生）の感謝の声	5
SUA学期留学体験（昨年秋）	6
キャンパススポット（2）	7
SUA年間予定・お知らせ	8

A Message from the President

アメリカ創価大学学長 ダニエル・ハブキ

ごあいさつ



拝啓 皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。またアメリカ創価大学(SUA)に対して、いつも変わらぬ御厚志、誠にありがとうございます。

去る5月には、SUA3期生が1期生・2期生に続いて、4年間共に過ごしたかけがえのない友情を胸に、創立者の慈愛と皆様の温かな声援のもと卒業し新たな旅立ちをいたしました。また、この8月には7期生も入学し、新入生だけの3週間集中授業も8月31日に終了し、9月6日からは新入生を含む世界30カ国を超える国々から集った約400名の全SUA生がそろい新学期がスタートいたしました。

この新学期を機としまして、1987年のロサンゼルス郡キャンパス開校以来、ご支援頂いてまいりました英語研修と1994年に開学した英語教育の専門家育成を目指す大学院の機能が、4年制の教養課程の学生が学ぶオレンジ郡キャンパスに統合を完了し、一つのキャンパスとして、一段と充実した環境のもと新出発を致しました。また新学期に先立ち今夏(6・7月)の2ヶ月間、オレンジ郡キャンパスにて、創価女子短大の夏季英語集中研修とSUA7期生(新入生)で英語を母国語としない学生の為の夏季英語集中研修(ブリッジ・プログラム)も行なわれ、9月からは、来年度SUA入学を目指す英語を母国語としない学生の為の1年間ブリッジ・プログラムも開始しました。更に、大学院の13期生も既に新学期が始まり、創立の精神の体现を目指し活発な授業が行われております。このような発展・充実も、すべて皆様方の真心のご支援によるものと心より感謝申し上げます。今後も更なる大学の発展のため、創立者の指針を胸に、SUA生が世界市民として大きく雄飛していくように教職員一同一層励んでまいりますので、今後とも何卒よろしく願い申し上げます。



第3回卒業式(3期生)



3期生入学当時に学生寮前にて

A Message from the Student President

新学生自治会執行委員長 カーラ・マイヤー

真心のご支援本当にありがとうございます



皆様こんにちは! アメリカ・ミネソタ州出身、アメリカ創価大学4期のカーラ・マイヤーと申します。SUAの学生を代表して、寄付者の方々の私たちへの温かいご支援に心から感謝申し上げます。SUAは、まさに皆様方のご支援によって成り立っており、SUAという素晴らしい環境の中で学ばせていただいていることに、誇りと使命を感じています。

去る5月27日に3期生の先輩が卒業し、SUAも新しい一步を踏み出そうとしています。新たに101名の7期生を迎え、SUAの大学院もオレンジ郡キャンパスにてスタートいたしました。また、昨年からの新たな試みとして、現存の人文、国際関係、社会行動学の3つの専攻ごとに、他大学や学術機関から有識者を招いてのシンポジウムが行われ、学生一同それぞれの分野で洞察力を深めることができました。創価教育学術会議は今年で3年目を迎え、1期・2期の卒業生の先輩たちが研究発表者として母校に戻ってきた姿に、皆触発されていました。

今夏にも、新たな試みとして、学生の代表5人が南アフリカの教育現場を視察する学習ツアーに参加しました。創立者の「21世紀はアフリカの世紀」であるというビジョンから生まれたもので、私もこの研修に参加させて頂きました。また、北京で行われたハーバード大学主催の開発経済と国際関係の学術会議にも、SUAの学生6人が参加し、また、今年で2回目となるニューヨーク国連本部での学習ツアーにも、多くの学生が参加しました。これら全ての活動は、皆様のご支援なしでは実現することはありません。私たちは深い感謝とともに世界中に創価教育の意義を伝えていくという、大きな使命と責任を感じております。学生自治会の委員長として、SUAの発展に尽力させていただけることに心から感謝し、また、一層の責任を感じ、いつも皆様のご支援を胸に日々前進してまいります。



創価教育学術会議での討論



南アフリカ学習ツアー



北京での学術会議に参加



国連本部学習ツアー



新入生 (7期生) キャンパスにて記念撮影

Appreciation from SUA Graduates

SUAでの4年間を振り返って(本年5月卒業:3期生)



アドリアン・クス

本年8月よりハンガリー、ブタペストにあるセントラル・ヨーロッパ大学(人権法専攻)に入学しました。この大学はヨーロッパでも評価が高く、今回の合格は最高の喜びです。今後も更に真剣に勉学に徹し、創価教育への理解を少しでも広げ、後輩への道を開いて行きたいと決意を新たにしています。

創価教育への理解を少しでも広げ、後輩への道を開いて行きたいと決意を新たにしています。

SUAでの4年間は私の人生で最も輝いた日々でした。この4年間で確実に高度な学力が磨かれ、同時に多くの生涯の友と出会う事が出来ました。SUAでの金の思い出は、寄付者の皆さんの支援なしでは不可能な事であり、皆さんの温かき声援に心より感謝しています。私の将来の夢は、欧州連合の人権裁判所等の機関で紛争解決・調停・紛争予防外交等のスペシャリストとして働くことです。世界中にいるSUA卒業生が健闘して、私達の母校であるSUAが皆さんの誇りとなる大学へと発展していくよう頑張っています。



イッペイ・シバタ

この5月に、SUAを卒業した3期の柴田一平です。池田先生、また、寄付者の皆様の温かいご支援により、この4年間、一生涯の土台を築かせていただいたと感謝の気持ちで一杯です。

世界各国から集まった尊敬する友人たちと、4年間苦楽をともにし、寮生活を送れたことは、一生涯の宝です。特にサッカークラブでは、チームワークを学ぶと共に体力を鍛え、4年間所属した学生自治会では、建学の精神実現、大学建設について多くの友と語りました。私は、9月からニューヨーク大学の経済学修士課程で学び始めました。将来の夢は、SUAに教授として戻り、自分が受けた人間教育を守り、さらに発展させていくことです。創立者池田先生、また、寄付者の方々への大恩を決して忘れることなく、生涯、報恩感謝の人生を歩んでまいります。陰に陽に、温かいご支援誠にありがとうございます。



マイケル・ミルズ

母はいつも「マイケル、世界平和に貢献できるようにしっかりと勉強するのよ」と語りかけました。母は創価大学・6期生です。SUAでの4年間は、教授との深い語り合いを通し、新たな視点の発見と学問への理解をより深めていった日々でした。現実の困難と自己の限界に挑戦できたのは、真剣に人生を語ったり、互いに勉学を励ましあって築いたSUAでの生涯の友情でした。

今秋、私はカリフォルニア大学の大学院で都市計画を学び始めました。将来は、世界中に平和の礎となる素晴らしい都市を創っていくのが私の夢です。SUAにて、最高の人間教育の機会を受け、素晴らしい友情を培うことができたのも、創立者・寄付者の皆さまの励ましのおかげであると心より感謝致します。そして、常に世界平和への道を歩ませてくれた両親にも感謝の思いを伝えたいのです。お父さん、お母さんありがとうございます。



ヨーコ・コーノ

SUAでの4年間、3期生として学んだ日々を振り返る時、創立者・そして世界中の多くの寄付者の皆さんの真心の応援に対し感謝の思いで一杯となります。SUAでは、サルサダンス、ヒップホップ、インディアンダンス、ヒューマンズムインアクション等多くのクラブ・課外活動に積極的に参加しました。また学生自治会の役員としての経験を通し多くの事を学ぶことができました。学問と課外活動等の両立は大変でしたが、どんな環境でも全てをやりきっていくという事をSUAで学びました。現実の学生生活では何回も自信をなくし、前進が大変困難な時、常に多くの友が私を信じ励ましてくれました。

この秋から私はスタンフォード大学大学院で国際比較教育を学び始めました。将来は、中国や国連で活動し、いずれはSUAにて教鞭をとる事が夢です。これからも、創立者が示された民衆の為の大学という重要な視点を見失うことなく日々皆さんへの報恩の思いを胸に挑戦していきます。



Appreciation from SUA Graduates

SUA同窓生の感謝の声



ナオミ・ヤマモト(1期生)

日頃より大学発展のために多大なるご支援を頂き、感謝申し上げます。

私は高校3年の冬、父を病気で亡くしました。念願だったSUA1期として合格した2ヵ月後の事でした。大学進学は非常に厳しい状況でしたが、寄付者の皆様のおかげで、奨学金を頂きながら大学生活を送ることが

出来ました。大学時代は、社会をより良きものに変えていきたいという共通の認識を持つ30数カ国の学生と「平和、世界市民、SUA生の使命」について語り合いました。この経験は、私にとって今でも大きな財産となっています。

大学4年次、私はSUA出身の看板を堂々と掲げ社会で活躍したいとの思いから就職活動に挑戦し、大手電機メーカーから国際営業本部への内定を頂くことが出来ました。社会人となってからは、残業続きの毎日や職場の人間関係に悩み、目に見えるような結果を残すことも出来ず、自信を失いかけた時期もありました。そんな中、2007年5月5日、創価大学で開催された創価同窓の集いにSUA1期生・2期生が同窓生として初めて参加させて頂くことが出来ました。その席上、創立者は私達卒業生を「創宝会」と命名して下さい、「我がSUA生は創価の宝の中の宝です」と大変有難い激励を頂きました。創立者のご期待にお応えし、寄付者の皆様への恩返しとなる生き方をするためにも、自分を卑下するような生き方は絶対にしないと心に強く誓いました。

「人々がより安全で快適に過ごせる平和な社会の建設」を私個人の目標として今後も創立者・SUA生との絆を強固にし、社会の最前線で行動する人になります。そして人々の幸福の為に真心を送り続けて下さる寄付者の皆様を模範としながら、私も後輩育成のために努力します。



SUA同窓との再会で決意も新たに



マリア・サンチェス(1期生)

SUAで学べた事は、私自身の人格形成と人間教育の教育者になるという人生の目標を実現する機会となりました。高校生の時、私は牧口先生と創立者池田先生の創価教育哲学を読み、私の故国、ベネズエラに創価スクールを作りたいと思いました。

その決意を持ってSUA1期生として入学しました。妹にもSUAに申込みようように激励しましたが、両親がSUAでの学費・生活費を出すことは大変な事でした。その時、SUAに奨学金がある事を知りました。建学の精神を理解し支援して頂いている寄付者の方々のおかげで、私と妹はSUAで学ぶことができました。皆様の誠実な真心からの寄付に本当に感謝いたします。

世界中の異なる文化の国々からやってきた友と4年間一緒に生活し、学友・教職員と深き交流ができた事は、私の人生を大きく広げ、世界について多くのことを学ぶ機会となり、私の夢である故国に創価教育の哲学を基盤とした学校を開校したいという思いは更に強固なものとなりました。学部卒業後、有能な人間教育者になりたいとの決意で、外国人に英語を教える力をつける為SUA大学院に進みました。スペイン語圏からきた私には、英語を学ぶ事は大変な挑戦でしたが、世界での英語の重要性を考え英語教授法を学びました。大学院でも、世界平和への貢献という同じ目的を持つ友との貴重な友情を深める事が出来ました。

現在、東京創価学園で英語の教鞭をとらせて頂いています。創価一環教育の教員として経験を深め、更に私の夢に近づいていると実感します。私達SUA生への皆様の声援は夢に向け挑戦しゆく上での大きな励みです。こんなに充実した人生を歩ませて頂ける事に対し、創立者池田先生、そして多くの寄付者の皆様の深い思いに感謝致します。



自身の夢を胸に東京創価学園で授業

学期留学 (2006年秋)

昨年秋学期に、3年次に必修となっている留学のため、4ヶ月間スペインのマドリッドへ行かせていただきました。留学当初は慣れない言語や生活習慣のため、意思疎通がうまくできず、はじめて何かに打ちのめさせられたようにホームシックにかかりました。思い描いていたような生活とはかけ離れた現実と向き合うことをやめようとしていたとき、いつも励ましてくれたのが、ホームステイ先のルームメイトでした。いつも帰宅するたびに、その日起こった不思議なこと、面白かったこと、腹が立ったことなど、何でも語り合い、苦しさやもどかしさを笑いにかえて過ごしました。そうしているうちに、スペインでの生活も慣れ、街の様子も人も大好きになりました。今もその当時のルームメイトとは連絡を取り合う仲になっています。このように、貴重な海外経験をさせていただき、また友達を作らせていただいたのも、寄付者の皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

シューヘイ・ナカムラ (4年生)



シューヘイ・ナカムラ (左から3番目)
スペイン・マドリッド

留学し当初不安の思いでいた時、創大祭で留学生と職員の皆さんが創立者の思いに応えようと一生懸命努力している姿に激励されました。皆一緒になって語り、歌ったりして素晴らしい思い出を刻めました。特に留学生の姿には感動しました。自分の国・家族・友人と離れて外国語・異文化を学び不安な状況の中でも毎日笑顔で頑張っています。こんな留学生達と一緒にいるだけで元気になり、私自身どんな場所・状況でも幸せになっていこうと心に決めました。留学期間中、多くの人々にお世話になりました。多忙な中、創立者より留学生が風邪を引かないようにとミカンの差し入れがあったり、一人一人を大切に作る創立者の思いにも触れ感動しました。また、毎日のように早朝より剣道部の皆さんと一緒に練習しました。初めは緊張しましたが、親切に、忍耐強く教えてくれ多くの事を学びました。剣道部の友の日々挑戦している姿に大きな力をもらいました。こうした貴重な一生の思い出を築けたことに心より感謝致します。

ジェミー・トーマス (4年生)

Study Abroad



ジェミー・トーマス (前列中央)
日本・八王子

昨年秋、中国・上海にて5ヶ月間、中国語とその文化を学ぶ貴重な人生の機会を得ました。アメリカで生まれ育った私にとって、上海の町を歩き、食生活をし、汽車に乗ったりして見る事・体験する事は全て驚きと発見の連続でした。特に忘れられない出来事は、ある日乗車した汽車で、貧しい母親の膝の上に座った幼子が乗客にお金を乞うている姿でした。一瞬衝撃の為呆然と立ちすくみました。もしこの子が、他人の冷たい眼差しと拒絶の中だけで成長したらどうなるのだろう。私に何が出来るのだろうと思いました。将来の私の夢は、小児科医になって世界中の多くの子供たちに高度な真心の医療を提供し手助けすることです。上海で出会った貧しい幼子の眼差しは、深く私の生命に刻まれ生涯忘れる事はないと思います。創立者も、SUAは様々な事情で大学に来ることが出来ない人々の為にあると言われていています。上海でも多くの人々に支えられ素晴らしい体験が出来ました。創立者をはじめ皆様への感謝の思いは表現しきれませんが、温かいご期待に応えていけるよう頑張っていく決意です。

ジュリー・ヨシマチ (4年生)



ジュリー・ヨシマチ (左から2番目)
中国・上海

Campus Spots キャンパススポット (2)

Residence Halls

学生寮

生涯の友情と伝統を育む宝城

世界30カ国を超える国々より集ったSUA生が互いの文化・慣習の違いを乗り越えて4年間共に寮生活し、深き対話と人間練磨の中で生涯の友情を築くと同時に世界市民として社会に貢献しゆく人生の基礎を培う宝城。現在、SUAキャンパスに8棟の寮があり、1人部屋と2人部屋、ラウンジ、エクササイズ・ルーム等の施設が充実しています。



Gandhi Hall

ガンジー・ホール

学問練磨の牙城

人類の平和と幸福の為に一生を捧げたガンジー夫妻の尊き生涯をSUA生の目指すべき一つの指標として命名された4階建てのホール。教室と教職員室が隣合せて配置され少人数クラス(平均16人)の真剣な授業が行われています。



2007 SUA Calendar 年間予定

(2007年)

(2008年)

7月		1月	● 冬季集中コース開始 ● 冬季集中コース終了
8月	● 1年生入学 ● 秋季集中コース開始 1年生のみ	2月	● 春学期開始
9月	● 夏休み終了: 1年生以外 ● 秋学期開始	3月	● 春休み
10月	● 奨学金チャリティ夕食会	4月	
11月	● オープン・キャンパス: SUA入学希望者(中高生と家族) ● SUA学生祭	5月	● インターナショナル祭 ● 春学期終了 ● 第4回卒業式
12月	● 秋学期終了 ● 冬休み開始	6月	



夏季英語集中研修(ブリッジ・プログラム)



創価女子短大・夏季英語集中研修

SUAキャンパスツアー：月曜～金曜 午前10時～、午後2時～（予約必要）

年間通し週末・祭日以外は、上記の時間で約1時間半のツアーを行っております。ツアー当日、日本語を話すガイドがない場合は、英語でのツアーとなります。予約はSUA公式ウェブ・サイトからも可能です。春・夏・冬休み中は、食堂・ギフトショップは閉まっております。

Announcements ご寄付に関するお知らせ

ご寄付に関するお問い合わせは、下記のウェブサイトか日本におけるSUAの留守電・FAX番号まで、ご連絡くださいますようお願い申し上げます。留守電とFAXには、**必ずお名前とお電話番号**をご連絡ください。米国との時差で多少遅れることもございますが、SUAより折り返しご連絡させていただきます。直接、SUAの日本語を話す担当者へのご連絡をご希望される場合は、国際電話となりますが下記**米国の連絡先**までお電話ください。

日本国内の連絡先: 03-4496-4453 (留守電およびFAX) **故障時: 03-6368-5488** (FAXのみ)

米国の連絡先: +1(949)480-4208 (時差で業務時間外の時は、ご伝言をお残し下さい) <http://devjp.soka.edu>

ご寄付の送金について

● 説明資料について

SUAへの寄付に関する説明資料は、最新情報をウェブサイト <http://devjp.soka.edu> から、ダウンロードしてください。

● 送金終了通知書送付のお願い

ご送金後、**送金終了の通知を必ず、ウェブサイト**でご入力いただくか、上記連絡先まで**FAXにて、お送りください**。外国送金時の銀行のシステム上、送金者名と送金額しか、SUAに届かない場合が多くございます。送金終了通知書がSUAに届いていない場合、やむを得ず不明者扱いとなり、領収書などの郵送ができなくなりますのでよろしくご願ひ申し上げます。

ウェブ(インターネット)をご利用できない場合

ウェブ(インターネット)をご利用できない場合、ご希望の書類(説明資料・送金終了通知書・連絡先変更通知書など)と、お名前と電話番号を上記の連絡先まで、**FAXか留守電**にてご連絡ください。

住所・あて名・ご連絡先などの変更

転居やご結婚などにより、お名前(寄付者名および郵送先あて名)や連絡先(住所、電話、FAX、携帯、Email)などのご変更があった場合、連絡先変更の通知をウェブサイトでご入力いただくか、上記連絡先までFAXにてお送りくださいますようお願い申し上げます。

故障時FAX番号のお知らせ

この程、日本国内の故障時FAX番号が下記のように変更となりましたので、お知らせ申し上げます。皆様にはお手数をお掛けし大変に申し訳ございませんがよろしくご願ひ申し上げます。

新番号: 03-6368-5488

(旧番号: 03-4477-5488)